

第 14 報 望ましいクラブ活動をめざして

— 高等学校を中心として —

要旨 学校教育の場において生徒全員にクラブ活動を経験させるために、その管理指導の中心となる組織運営について考え、更にそれが円滑に運営されてゆくための方向や方法について検討を加える。

はじめに

本校におけるクラブ活動については昨年度の紀要に進路指導との関連において中間的な報告をのせてあるので、それをもととしてこれからの報告をすすめていきたい。

I. クラブの活動状況と生徒の参加状況

本校においてはクラブは前、後期の二期制で、そのはじめにクラブ間の移動が認められる。しかも活動日数については週2日以上とし、選手であるなしにかかわらず出席表をつけて管理指導の材料としている。その結果は表1にみられるようで、90%近い出席率をあげている。表の中で下に○印のついている者が九月に、

表1 クラブ活動日数と出席率（4月～9月）

	活動日数	90%以上	80% 90%	70% 80%	60% 70%	50% 60%	50%以下
		テニス	73	18	13	4 ○	3 ○
卓球	82	6	1	2 ○○			
バレーボール (男子)	67	9	2				
〃 (女子)	68	6	6	3			
バスケットボール (男子)	91	14 ○		1			1
〃 (女子)	50	2	4	3	1		3 ○○○
バドミントン (男子)	84	2	4	9			2 ○
〃 (女子)	66		1	2	8		
サッカー	87	18	4	4 ○○	1 ○		1 ○
水泳	42	2	2				
軟式野球	77	5	2 ○	3			
陸上競技	42	8 ○	1				

郷土誌	41	11					
文芸	32	3	1	1			
英語	33	4	1		1		
化学	45	2	6		4 ○○○○		
アマチュア無線	44	4	1			1	
美術	59	4	2	4 ○	1 ○		1 ○
合唱	45	2	4	1	2 ○		
ブラスバンド	55	8	4		2	1	
家庭	35	5	1				
茶道	32	8	1				

他のクラブへ移動したものの数であるが、これからもわかるように、クラブ活動に不適應をおこして出席率が低下する。したがって切りかえ時に移動するという結果になる。そこでその不適應について考えてみるとまず全員クラブ制であるからどうしても一つのクラブに入らなければならないのであるが、現在のクラブの中に自分のはいってやってみたいというクラブの見出だせないもの、本質的にクラブの選択を誤ったもの、クラブ内の人間関係に失敗したもの、活動自体に耐えられなくなったもの、勉強との両立という点からクラブが勉強にとってマイナスであると考えられるもの、理由はないがさぼるもの等の理由が考えられる。こうしたものについては教師（顧問や担任）や友人の助言によって、真面目にクラブ活動に参加するように指導を加えるが、場合によっては活動の場の見出させるようなクラブへの移動も考えてやる。このことについて次の表2を参考にして考えて頂ければそれが大体おわかりになると思う。

表2 クラブ移動の理由

	1年		2年		計
	男	女	男	女	
何か運動をやろうと考えて	8	5	3		16
高校にはいったら是非運動クラブに入ろうと考えて	10	4			14
体をきたえようと思って	5	1			6
対外試合に出たいので	2				2

B. 発展的目標をもった生徒の管理・指導

チームプレーがやりたいので	2				2
体をもてあまして			1		1
余り気がすすまないが全員クラブ制なので	6	1			7
何となくかわってみたいくなって	9	1	9		19
いろいろやってみたいので	4	3	1	1	9
今まで入っていたクラブが活動休止になったので	1	1	7		9
今まで入っていたクラブに自信や興味を失って			2	6	8
何となくやってみたいくなって	2	5	1		8
今まで入っていたクラブが自分にむいていないことがわかって	2		5		7
今まで入っていたクラブの活動内容が気に入らなくなって	2	4			6
父、先生、友人にすすめられて	1	3	2		6
自分のために役立つと思っ	1	3			4
て					
活動日の都合が悪いので		3			3
女子部員が少ないので		1			1
勉強と両立させたいので	3	3	1	1	8
からだがいらいなので	1		1	2	4
からだをこわしたので	2		2		4
計	61	38	35	10	144

II. 成績不振児と対外活動の禁止

本校では三科目以上の単位不認定科目が学年末成績につくと進級できない。そこで一学期、二学期においても三科目以上の落第点の（10段階の絶対評価で「1」と「2」のついたもの）あるものは、次の学期には対外活動に参加させない。これは勉強とクラブは当然両立させなければいけないという原則のもとに、どんなにクラブ活動でよい成績をあげたものであっても、学習成績の極端に悪いものは、学校代表として対外活動に参加する資格がないという考え方である。そしてこれの意図は、そうした生徒に学習意欲を起させる一つのきっかけとなればよいという教育的手段である。そうした意味では以後の担任や顧問の指導が重要になってくる（表3参照）

III. クラブ評価

毎学期末各顧問によってつけられるクラブ評価が表4にあげてある。これは顧問教官が出席率を中心としてA・B・C三段階の評価をするのであるが、評価基準としての客観性に欠けているという点で今後の問題として残されている。しかし、これが生徒のクラブ参加を側面から促進し、親に対して学校教育の中におけるクラブ活動の重要性を認識させるという点で効果をあげているように思う。

表3 学習成績と対外活動の禁止（1学期末成績）

	運 動 ク ラ ブ								文 化 ク ラ ブ								男 計	女 計	男 女 総 計
	1年		2年		3年		計		1年		2年		3年		計				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
成績不良科目が1つあったもの	11	9	16	6	7	4	34	19	4	5	9	7	5	4	18	16	52	35	87
” 2つ ”	2	9	3	1	4		9	10	2	3	5	7	2	1	9	11	18	21	39
小 計	13	18	19	7	11	4	43	29	6	8	14	14	7	5	27	27	70	56	126
成績不良科目が3つあったもの	3	2	2	3	3		8	5			2	2	1	1	3	3	11	8	19
” 4つ ”	2	1	2	1	3		7	2		1	4	2	1		5	3	12	5	17
” 5つ ”	1				1		2			1					1		2	1	3
” 6つ ”										1				1	2			2	2
” 7つ ”			1				1										1		1
” 8つ ”										1					1			1	1
小 計	6	3	5	4	7		18	7		4	6	4	2	2	8	10	26	17	43
総 計	19	21	24	11	18	4	61	36	6	12	20	18	9	7	35	37	96	73	169

表4 クラブ評価 (1学期末)

	運動クラブ								文化クラブ								総計
	男			女			計	男			女			計			
	1年	2年	計	1年	2年	計		1年	2年	計	1年	2年	計				
A	45	41	86	17	20	37	123	14	21	35	11	16	27	62	185		
B	20	12	32	17	2	19	51	5	7	12	9	10	19	31	82		
C	2	2	4	1		1	5								5		
計	67	55	122	35	22	57	179	19	28	47	20	26	46	93	272		

IV. クラブ活動と進路指導

本校の全員クラブ参加も高2の3学期までで、3年生はクラブへの登録はしても、出席は自由になっている。これは高3になって特に学習への時間を十分とって落着いて勉強できるようにという配慮からである。

この点についての生徒の受取り方は表5のようであり、高2の3学期までクラブ活動に参加することは生徒の学校生活を充実させる意味からも重要であり、そのエネルギーを一転させて勉強に向けさせたいという意図からいっても現状でよいのではないかと考える。

表5 全員クラブ参加の期間

	運動クラブ										文化クラブ										総計
	男				女				計	男				女				計			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計				
最初から自由参加	22	9	5	36	3	5	5	13	49	7	11	9	27	4	8	11	23	50	99		
高1の3学期まで	3	4	2	9	1	1	1	3	12	2	1	5	8	3		2	5	13	25		
高2の1学期まで	3	8	6	17	3	2	1	6	23		4	1	5	1		3	4	9	32		
高2の2学期まで	13	11	13	37	7	2	2	11	48	2	1	6	9	1	2	4	7	16	64		
現状どおり高2の3学期まで	20	17	17	54	18	11	12	41	95	5	7	13	25	9	9	6	24	49	144		
高3の1学期まで	5	5	8	18	3	1	4	8	26	3	4	2	9	1	6	3	10	19	45		
無 答	1	1		2					2					1	1		2	2	4		
計	67	55	51	173	35	22	25	82	255	19	28	36	83	20	26	29	75	158	413		

む す び

以上本校におけるクラブ活動の実態についての分析と検討を2, 3の点について試みたのであるが、これらの問題についてはまだまだ、いくつかの困難が内蔵さ

れている。これらの問題点のなかには現状において解決可能のものも少くない。そうした点を一つ一つ解決し、よりよいクラブ活動を作りあげてゆくことが、われわれの使命と考える。

(原田・加藤剛・北田)

第 15 報 積極性のある「道徳」をめざして

要旨 私達は過去三年間、発展的目標をもった生徒の管理指導の一環として、積極性をもった「道徳」を求めて実態調査を実践してきた。以下、そのまとめを報告してみよう。

I. はじめに

私達は、指導要領に於ける三領域に満足することなく、「与えられたから受ける」態度（昭和42年度道徳指導者講習会に於ける文部省側発言）から脱却する必